

石川啄木を知っていますか？

明治時代を代表する歌人・詩人で、明治19年に岩手県で生まれました。
 19歳の時に、中学の同級生と結婚し、両親や妻を養うために小学校の先生になりましたが、文学の夢が捨てきれず、22歳の時に東京・文京区へ来ました。
 石川啄木は26歳で亡くありませんが、この4年間に文京区内を6回引っ越しをし、そのうち3回は、皆さんの住んでいる本郷小の学区域でした。



石川啄木の住んだ家(文京区)

石川啄木が詠んだ詩 「一握の砂」より
 たはむれに母を背負ひて そのあまり軽きに泣きて 三步あゆまず
 東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる

今日の給食は、石川啄木が育った「岩手県」の郷土料理です。

ひっつみ

昔から岩手県の郷土料理として親しまれている「ひっつみ」です。小麦粉を耳たぶくらいのやわらさまでこねて、ひっつまんで(ちぎって)鍋に入れることから「ひっつみ」と名付けられました。季節のきのこや野菜、川魚や地鶏などを入れて煮込んだ赤・黄・緑の食品がすべてとれる栄養たっぷりの一品です。



雑穀米

白米が貴重な昔、米に雑穀を入れて高をまして食べていました。今は健康食として食べられています。

